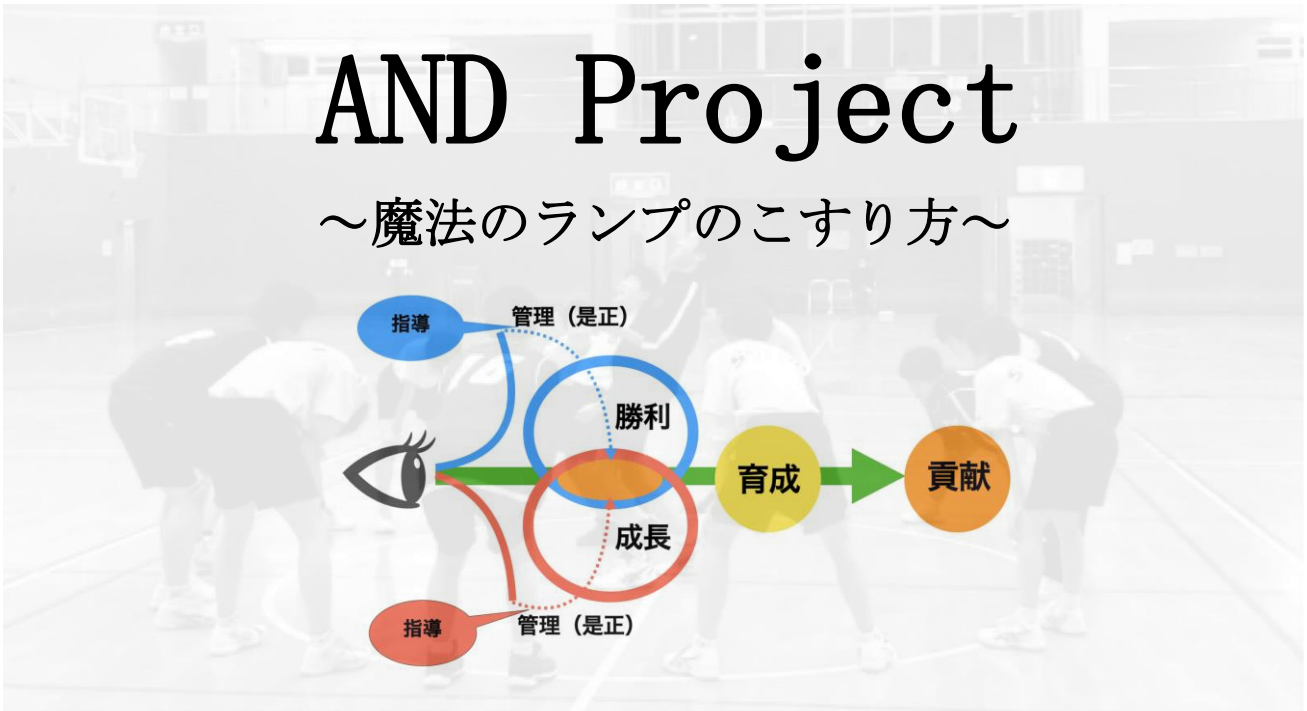


# AND Project

～魔法のランプのこすり方～



## ○What AND Project?

「勝利」と「選手の成長」の両方を追えるコーチングを共に考え、指導現場に広めていく活動です。その先にある主体的な子どもの育成を通して、社会に貢献していくことを理念としています。

## ○Mission

VUCA 社会で求められる主体的な人材育成をバスケットボールの指導現場から届けます。

## ○Vision

- ①National AND Project で未来の育成デザインを新潟から発信します。
- ②他分野の専門家と連携し、子どもの育成事業を展開します。
- ③AND Project 監修「育成指導要領」を発行します。

## ○Value

- ①勝利 AND 育成を目指した指導をします。
- ②Teaching AND Coaching を両輪とし、子どもの学びの場を提供します。
- ③Input AND Output で刃を研ぎ続けます。



@AND\_PROJECT.SINCE2022

# AND Project VOL.3 企画書

～VUCA の時代に求められる人材育成をスポーツ指導現場から提案～

(公財) 長岡市バスケットボール協会 強化委員

AND Project 代表

伊藤周平

## 1 Why (なぜ本企画を行うのか?)

### 国や社会に対する意識調査

	自分を大人だと思う	自分は責任がある 社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を 変えられると思う	自分の国に解決したい 社会課題がある	社会課題について、 家族や友人など周りの人と 積極的に議論している
日本	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

【日本財団 18 歳意識調査 2019 年 10 月実施】

これからの予測不可能で混沌とした時代をリードしていくのは、「主体的」な人材です。主体的な人材に求められる力は、①自分で課題を設定できる力、②設定した課題を解決していける力です。

主体的な人材育成をスポーツ指導現場から届けることで、これからの時代（社会）の貢献になると考え本企画を設定しました。

## 2 What (何を?)

本企画では、各指導者がバスケットボール指導を通して、VUCAの時代に求められるコーチングアイデアを提案します。コーチングテーマ(目指す子どもの姿)は、「自分で考え、課題を解決しようとする子どもの姿」です。

## 3 When (いつ?)

2023年9月2日(土) 9:00-18:30

## 4 Where (どこで?)

新潟県長岡市立越路中学校体育館

## 5 Who (だれが?)

鈴木良和(株式会社ERUTLUC代表)、堀里也(白新中学校)、大塚太郎(与板中学校)、中野秀一(宮内中学校)、西澤思音(刈谷田中学校)、伊藤周平(AND Project代表)

## 6 How (どうやって?)

各指導者が、モデル選手を対象に50分(30分)のコーチングSession(バスケットボール指導)を行います。指導テーマは、「自分で考え、課題を解決しようとする子どもの姿」です。

session後、指導者を含む参加者で「GOOD」、「NEXT」の視点から各sessionを振り返り、今後のコーチングについて意見交換を行います。

## 7 Schedule

	時間	担当
午前の部：開場 8:30 Model：長岡市内U13~U15参加希望選手		
Opening	9:00-9:10	伊藤周平(AND Project代表)
session1	9:10-10:00	堀里也(白新中学校)
session2	10:10-11:00	鈴木良和(株式会社ERUTLUC代表)
Session3	11:10-11:40	大塚太郎(与板中学校)
Ending	11:40-11:50	伊藤周平(AND Project代表)
reflection	12:00-12:50	鈴木良和(株式会社ERUTLUC代表)
休憩 12:50-14:00		
午後の部：開場 13:30 Model：新発田市立本丸中学校		
Opening	14:00-14:10	伊藤周平(AND Project代表)
session3	14:10-15:00	鈴木良和(株式会社ERUTLUC代表)
session4	15:10-16:00	西澤思音(刈谷田中学校)
Ending	16:10-17:00	中野秀一(宮内中学校)
Session5	17:10-17:20	伊藤周平(AND Project代表)
reflection	17:30-18:30	鈴木良和(株式会社ERUTLUC代表)

## 【スポーツコーチング現場からの考察と提案】

2022年12月27日、スポーツ庁と文化庁は部活動の地域移行に向けた「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定しました。2023（令和5）年度から2025（令和7）年度末を目途に、その3年間で「地域移行改革集中期」と位置付け、部活動を地域移行していく準備を進めていくことになります。現在、新潟県内でも部活動の地域移行を見据えたクラブチームの設立が進んでいます。今後、子どもたちは活動する環境（場所や時間）を自分たちで選択することができるようになります。

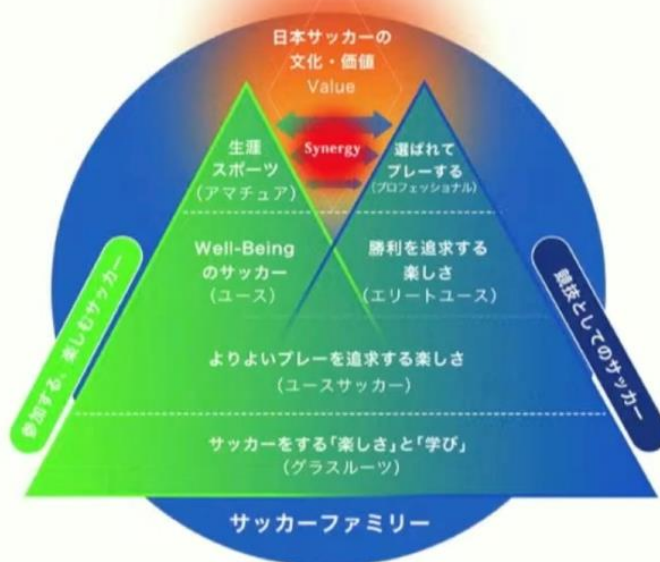
子どもたちを取り巻く活動環境の変化に伴い、子どもたち自身も活動する場所や時間を「自己決定」できるようになります。それと同時に、スポーツコーチングの在り方も変革期を迎えていると考えています。子どもたちの力を高めていく「強化」という視点を大切にしながらも、バスケットボールの楽しさを広めていく「普及」という視点も求められていくと思うのです。

「スポーツコーチングの価値とは？」を問い直すことで、子どもたちに届けられる成長があると信じています。

2023/4/9 競技横断 ジュニアスポーツミーティング



### バスケット界の育成は、現在、何を行っているか



競技志向と  
レクリエーション志向

選手のニーズと  
レベルに応じて楽しむ

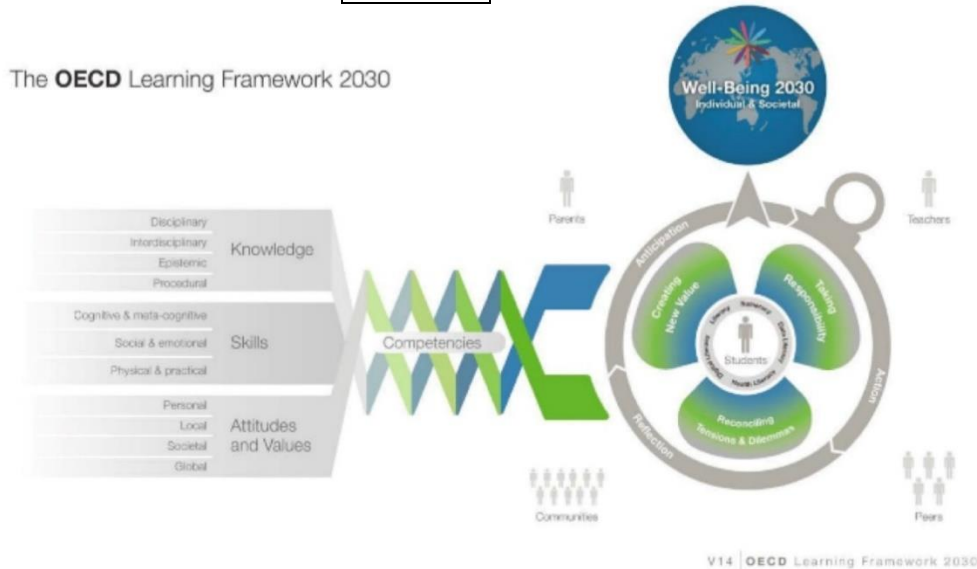
大人は楽しさを創出する  
サポートを考える

JFA提唱のダブルピラミッド (JFA Japan's Wayより)

## 【学校教育現場からの考察と提案】

2019年5月、OECD（経済協力開発機構）は、学びの羅針盤「learning Compass 2030」を発表しました。その中で、2030年までに子どもの育成すべき「4つの力」が整理されています。

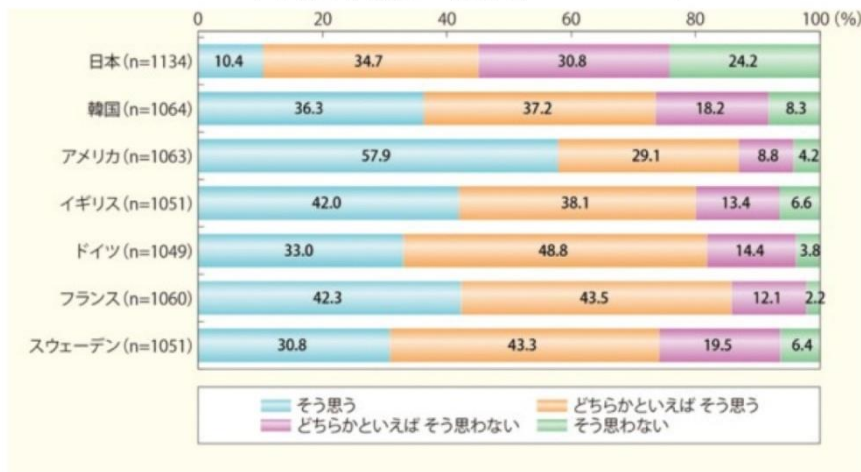
- ① Taking Responsibility（自分で考え判断し、行動する力）→ **自立**
- ② Reconciling Tensions & Dilemmas（対立やジレンマを克服する力）→ **尊重**
- ③ Creating New Value（新たな価値を創造する力）→ **創造**
- ④ Agency（自分事として捉える力）→ **当事者意識**



しかし、日本教育は明治時代から礼節・忍耐・協力といった、従来の教育モデルをずっと繰り返してきました。日本が繰り返してきた「与えすぎる教育」の代償として、日本教育は一番大切なものを失ったのかもしれない。うまくいかないことがあると人のせいにする。学力が上がらないと先生の教え方が悪いと言う。クラスがまとまらないと担任がはずれたと言う。大人が手をかけすぎた結果、子どもたちは自分自身で「考えること」をやめてしまいました。与えすぎる教育は、主体性、自己肯定感、当事者意識の欠如をもたらしたのです。

今、私たち指導者に求められているのは、子どもたち自身で考える機会、課題を発見する機会、課題を解決できる機会を提供することだと考えています。

### Q 自分自身に満足していますか？

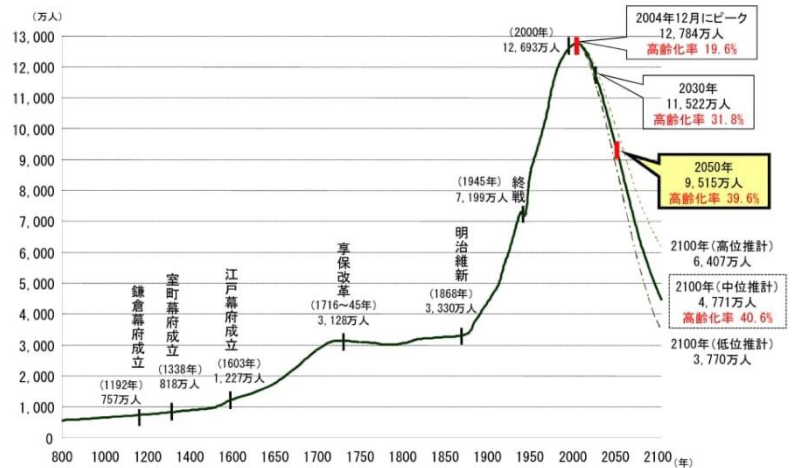


## 【時代は変わる】

Volatility (変動)、Uncertainty (不確実)、Complexity (複雑)、Ambiguity (曖昧) な時代が到来します。米中の経済対立による国際経済の不安定や超高齢化社会、人口減少による消費市場のトレンドの変化や iPhone など産業構造そのものを覆すイノベーションなどは、私たちが生きる社会の仕組みを大きく変えました。



【新しいローマ法王の発表の様子】



【国土交通省資料より】

社会の変化とともに、人の内面にも変化が起きています。20世紀（成長社会）は、みんなと同じ答え（考え）を求める時代でした。しかし、21世紀（成熟社会）で到来した VUCA 時代では、一人一人の違った考えに価値が集まる時代です。人々の多様な考えを紡いでいながらも、みんなが納得できる答え（納得解）が求められていきます。「東京オリンピック賛成？反対？」、「マスク付けるの？外すの？」、「ウクライナの今後は？」。

これからは、1つの答えを見つけ出すジグソーパズル型の思考ではなく、仲間と関わり合いながら多様な考えを構築していくレゴ型の思考が求められていく時代に突入します。

## 社会の変化と求められる力

20世紀【成長社会】	21世紀【成熟社会】
【みんな一緒】	【それぞれ一人一人】
正解主義	修正主義
情報処理能力→正解	情報編集力→納得解
	
【ジグソーパズル型】学力	【レゴ型】学力

森圭司先生【実践学園中学校】講演会資料より編集

## 【VUCA の時代の育成環境で大切にしたいもの】

### ① 心理的安全性 (Psychological safety)

子どもたちにとって、「何かに挑戦して成功した体験」、「失敗から学べた体験」、「工夫すれば何とかこなった体験」はとても重要です。そのような体験を積むためには、子どもたち自身が安心して挑戦できる環境「心理的安全性」が必要不可欠です。この言葉を世に広めた Google は、心理的安全性を「不安や恥ずかしさを感じることなく、リスクのある行動を取ることができる場所」と定義しています。



「窮鼠猫を噛む」という言葉があるように、人は追い込まれると脳が正常運転できなくなることが脳科学的にも言われています。「失敗しても大丈夫」という環境下で、積極的にたくさんのトラブルを体験してもらうことも子どもにとって大きな学びになり得ると思っています。



## ② メタ認知能力 (Metacognition ability)

混沌とした変わりゆく時代を生きていく子どもたちにとって、「自分で自分を成長させていく」というスキルや視点は大切です。そのためには、自己の内面と向き合うことが必要です。



デルポイ：アポロン神殿内ステンドグラス

## 汝自身を知れ

古代ギリシア格言：アリストテレス

刺激的で魅力的な情報が溢れる現在。今の子どもたちはコマ切れの外部情報をインプットすることに夢中になり、内部情報（自己）と向き合う時間が激減しているように思います。そんな今だからこそ、メタ認知能力（自己を俯瞰的に捉え、自己について学ぶ能力）の育成が求められています。

メタ認知能力を育てる手段の1つにモデリング (modeling) があります。学習者がお手本となる映像を見て、模倣し、技術を身に付けていく手法です。

東京都にある原田左官工業所では、このモデリングを使って若手職人の育成で成果をあげています。優れた職人の仕事を映像で撮って、自分の姿と見比べます。この会社の職人は、普通の職人が10年かかって身に付ける技術を、わずか3年で身に付けていくそうです。



原田左官工業所（東京都文京区）の実践

子どものメタ認知能力を育むことで、ネガティブな学びをポジティブな学びへ書き換えていける社会の実現につながると考えています。

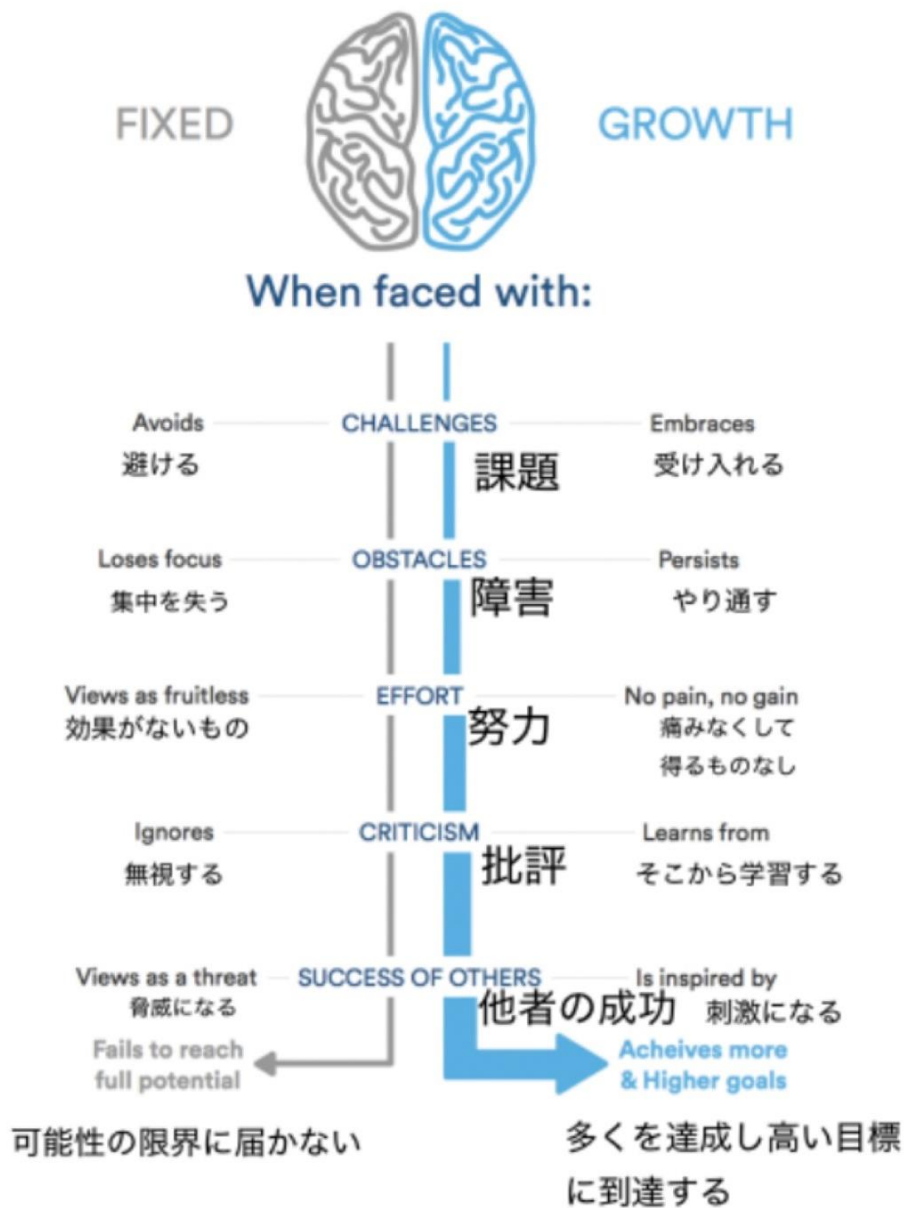


### ③ マインドセット (Mindset)

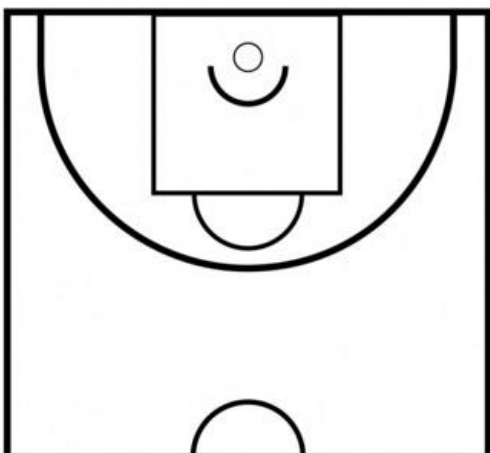
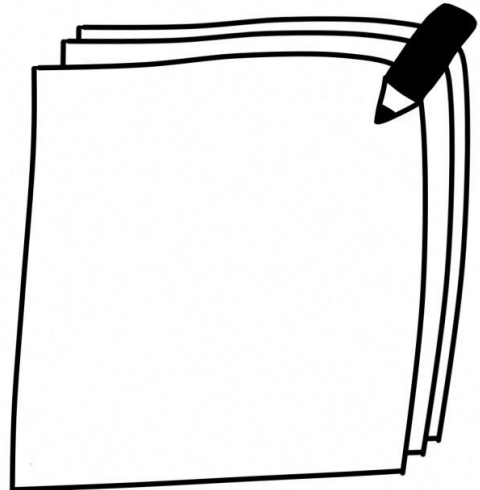
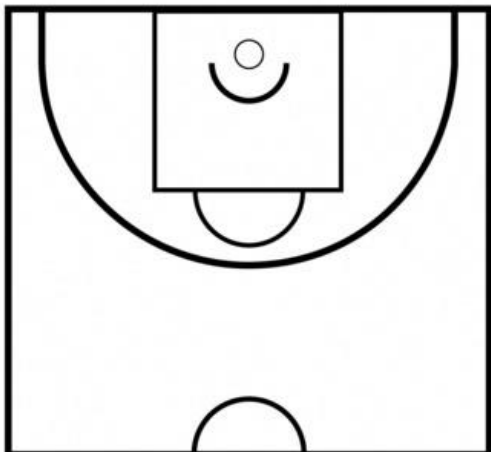
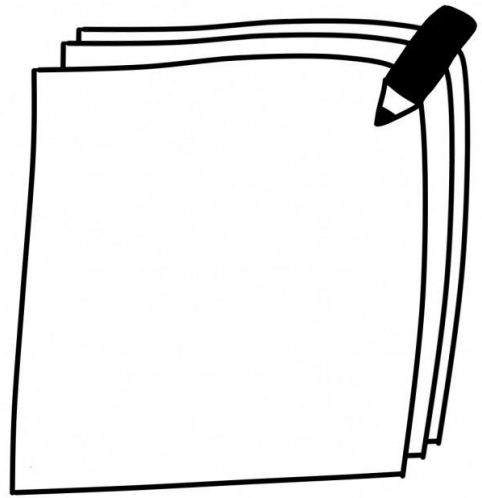
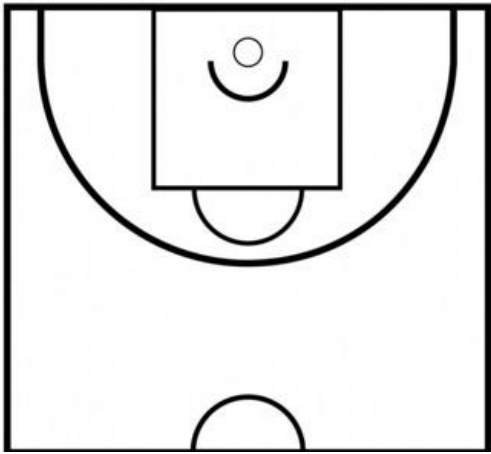
VUCA の時代は、未知なるものや新しいものに対してストレスを受けやすい時代です。脳科学的にも過剰なストレスは、パフォーマンスを下げるということが分かっています。そのため、子どもたちは環境に強い脳を作っていかななくてはなりません。

目の前の物事をネガティブに捉える見方・考え方を Fixed mind (固定的マインド) と言います。一方、物事をポジティブに捉える見方・考え方を Growth mind (成長マインド) と言います。

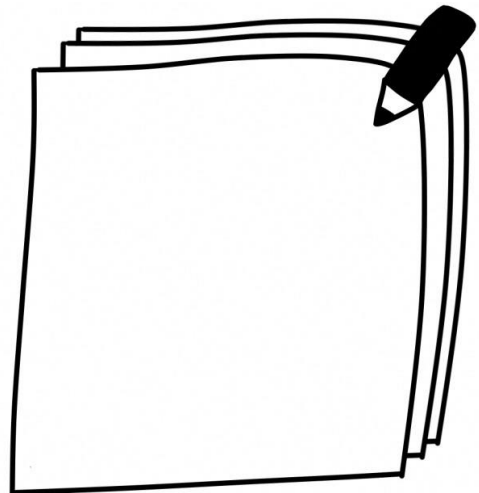
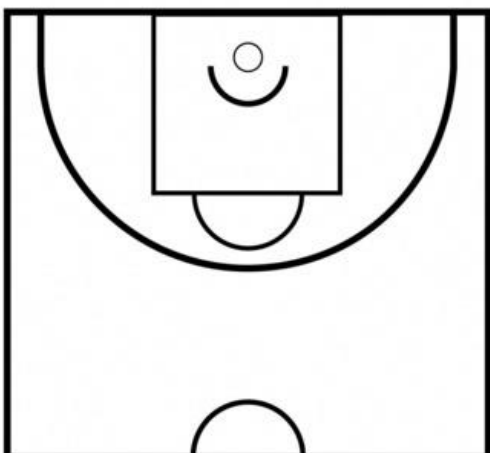
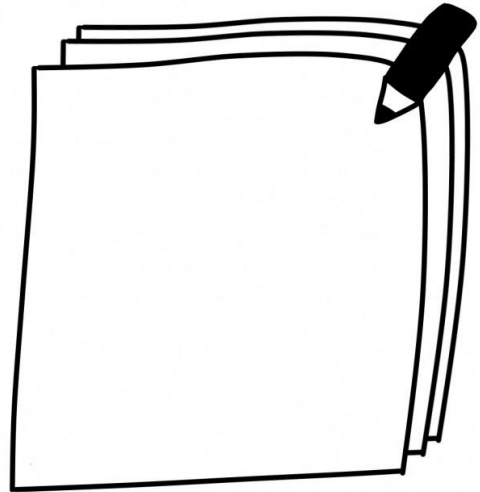
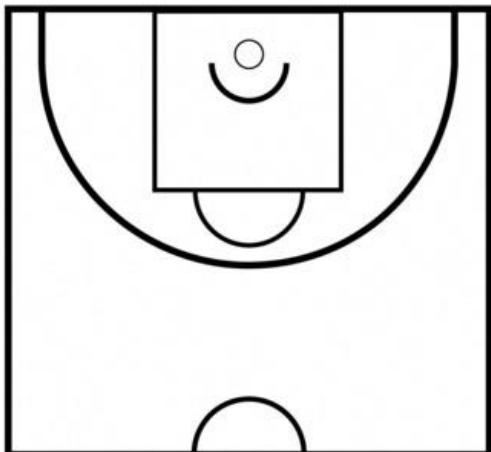
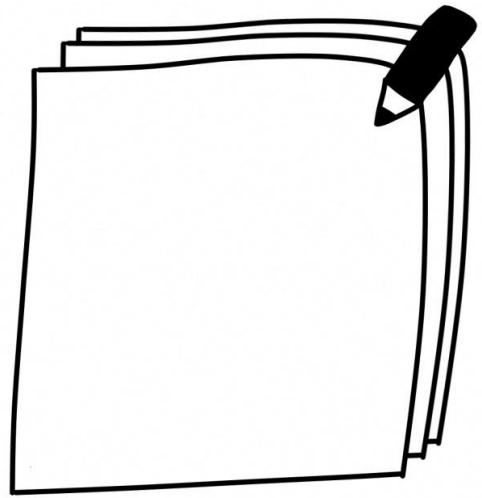
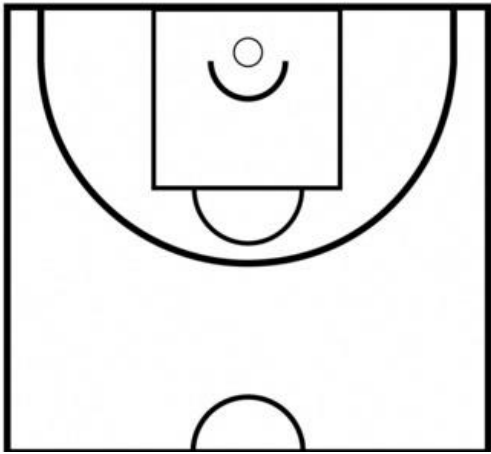
人は、「ものの見方・考え方」というフィルターを通して外部情報を受け取っています。ものの見方・考え方を变えるだけで、ネガティブな情報もポジティブな情報へと書き換えていけるかもしれません。



MEMO



MEMO





変わる力。

変える力。

**【連絡先】**

AND Project 代表 伊藤周平

TEL : 09015574831